

定住自立圏構想

中心市宣言書



平成 22 年 1 月 29 日

兵庫県西脇市

定住自立圏中心市宣言

わたしたちの西脇市は、中国山地の東南端が播磨平野に接する地点に位置し、県下最長の加古川とその支流が合流する自然豊かな土地に展けたまちです。恵まれた自然を享受して、先人たちは豊かな暮らしと文化を育んできました。近世以降、綿織物・播州織と播州釣針のわが国屈指の産地として、さらには北播磨の商都として栄え、兵庫県内陸部で最初に市制を施行し、当地域の拠点都市として発展を遂げました。

また、東経 135度と北緯35度が市域で交差し、日本列島の中心に当たることから「日本のへそ」を標榜し、「日本のへそ」に住む自覚と誇りを持って、個性豊かなまちづくりを展開しています。

しかしながら、社会成長の大前提である人口が今後国レベルで減少する時代を迎え、さらには社会経済のグローバル化の進展などと相まって、地方自治体はこれまでの成長社会において経験したことのない多くの複雑な課題に直面しています。住民生活に最も身近な市町村では、こうした時代の潮流を的確にとらえ、地域の英知と行動力を最大限に発揮して、急激に変化する社会経済環境に確実に対応し、持続可能な地域経営を展開していくことが求められています。

このような中、本市では、今後は単独であらゆる住民ニーズを充足するフルセット型の行政を志向するのではなく、周辺市町との連携と役割分担を図り、さらには地域住民との協働により、将来にわたりより豊かな生活機能を確保し、確かな安心と強い活力があふれる地域を創造していくことが必要であると考えています。これまでも一部事務組合による行政事務の共同処理など周辺市町との広域連携に取り組んできましたが、こうした連携を今一步進めていくことが重要であります。また、住民生活の活動範囲は、自治体の枠組みにとらわれず、居住区域を越えて拡大しており、広域的な結びつきはますます強くなっ

てきています。こうした背景を踏まえ、本市では、周辺市町と力を合わせて、地域全体の繁栄と発展に努めていかなければならないと認識しています。

以上のことを自覚し、本市は周辺市町とともに、定住自立圏の形成に向けた取組を進めてまいります。

このことは、それぞれの自治体を持つ特性を最大限に生かしながら、行政のみならず、地域の多様な主体が総力を結集して、このふるさとに住む人々が豊かに暮らせる、魅力ある地域づくりを進め、地方における生活圏の新しい姿を創り出そうとするものであります。

その実現に向け、西脇市は定住自立圏の中心市として、生活機能の充実を図るとともに、周辺市町との相互理解と共通理念の下、地域全体のマネジメントを担う役割の重要性を十分に認識し、圏域の持続的な発展のために全力で取り組むことをここに宣言します。

平成22年1月29日

西脇市長

來住壽一

1 西脇市における都市機能の集積状況

西脇市は、古くから北播磨地域の拠点都市として発展してきたことから、住民の生活機能を確保し、圏域の振興を図る上で中核的な役割を担う都市機能について、一定の集積があります。

定住自立圏を形成する中心市としての行政及び民間分野における主な都市機能の集積状況については、次のとおりです。

分野	都市機能	施設名等	備考
医療	公立病院	西脇病院	18科 320床
	民間病院	大山病院	14科 110床
	休日急患センター	西脇多可休日急患センター	西脇病院内
福祉	特別養護老人ホーム	みぎわ園	135床
		楽寿園	110床
		オンベリーコ	50床
		向陽苑	54床
	介護老人保健施設	しばざくら荘	
	障害者施設	西脇市障害者地域活動支援センター	
		ワークホームタンポポ	
	保育施設	市立2園、私立7園	
	総合福祉施設	総合福祉センター萩ヶ瀬会館	
		黒田庄福祉センター	
勤労福祉センター			
教育・文化・スポーツ	高等学校	県立西脇高等学校	
		県立西脇工業高等学校	
		県立西脇北高等学校	
	文化施設	播磨内陸生活文化総合センター	図書館 郷土資料館
		西脇市民会館	
		音楽ホール「アピカホール」	
		西脇市岡之山美術館	
		にしわき経緯度地球科学館	
	スポーツ施設	西脇公園	野球場・テニスコート・屋内ゲートボール場

分野	都市機能	施設名等	備考
教育・文化・スポーツ	スポーツ施設	天神池スポーツセンター	体育館・温水プール
		黒田庄ふれあいスタジアム	野球場・テニスコート
	文化・スポーツ複合施設	総合市民センター	体育館・武道館・研修館
観光・交流・娯楽	交流拠点施設	北はりま田園空間博物館 総合案内所 ほか	道の駅
	都市公園	日本へそ公園 ほか	
	文化財	旧来住家住宅 ほか	国登録有形文化財
消費・金融	大規模小売店舗	ショッピングセンター ほか	14店舗 面積1,000㎡以上
	金融機関等	銀行・信用金庫・信用組合・労働金庫	8店舗（支店）
		郵便局・簡易郵便局	14箇所
		J A	3店舗（支店）
交通	鉄道	J R 加古川線	7 駅
	路線バス	神姫バス・西日本 J R バス	西脇～大阪駅・三ノ宮駅路線ほか
	道路	国道175号、国道427号 ほか	
国・県・広域行政機関	警察	西脇警察署	
	消防	にしたか消防本部	西脇多可行政事務組合管理運営
	国関係	西脇税務署	
		西脇公共職業安定所	
		西脇労働基準監督署	
	県関係	県立工業技術センター 繊維工業技術支援センター	
		その他広域関係	西脇多可広域斎場 「やすらぎ苑」
	西脇多可行政事務組合		農業共済事業など
	北播磨清掃事務組合		ごみ処理施設
西脇地域職業訓練センター			

2 西脇市における都市機能の利用状況等

西脇市の主な都市機能の利用状況等については、次のとおりです。

(1) 中核的な医療機能

平成21年11月に全面改築を終えた市立西脇病院は、診療科目18科、病床数320床を擁し、救急指定病院や災害拠点病院等の指定を受けており、北播磨北部地域における医療拠点となっています。また、病院内には休日急患センターの機能も併設しています。

その他救急指定病院である大山病院もあり、市立西脇病院とともに市内にとどまらず、近隣市町からの患者の受入れを行っており、圏域住民の安全・安心な暮らしを支えています。

■市立西脇病院の利用状況（平成20年度）

区分	西脇市	多可町	その他	計
外来患者数	68,436	21,205	41,138	130,779
入院患者数	40,850	16,303	34,356	91,509
救急車搬送件数	1,154 *		1,038	2,192

* は、にしたか消防本部（西脇市・多可町で設置）の搬送件数

■西脇多可休日急患センター（旧西脇市多可郡休日応急診療センター）の利用状況（平成20年度）

区分	西脇市	多可町	その他	計
利用者数	250	118	42	410

(2) 教育・文化機能

市内には、県立高等学校が3校あり、うち1校は昼間課程だけでなく夜間課程も開設しており、周辺市町から多数の学生が通学しています。

また、昭和58年に開設された播磨内陸生活文化総合センターには、図書館が設置されており、圏域住民に利用されています。

■ 市内の高等学校の通学者（平成21年12月1日現在）

区分	西脇市	多可町	その他	計
西脇高等学校	410	276	261	947
西脇工業高等学校	330	63	293	686
西脇北高等学校	51	20	64	135

■ 西脇市図書館の利用状況（平成21年）

区分	西脇市	多可町	その他	計
登録者数	12,769	1,835	1,131	15,735
貸出冊数	118,034	5,052	4,147	127,233

(3) 商工業機能

地場産業である播州織の興隆とともに発展してきた本市では、早くから「北播磨の商都」としての商業機能が集積しています。

また、工業団地は立地していないものの、市街化調整区域への工場立地など産業誘導を進めており、誘致企業である電子部品産業の製造品出荷額が占める割合が高くなっています。

■ 西脇市の商業の概要（平成19年度）

区分	商店数	従業者数	年間商品販売額 (万円)
卸売業	196	1,158	4,761,603
小売業	517	3,058	5,007,384

■ 西脇市の工業の概要（平成20年度）

事業所数	従業者数	製造品出荷額等 (万円)	付加価値額等 (万円)
189	4,764	16,163,694	4,841,299

(4) 交通機能

市内には国道 175号や 427号などが走っており、圏域のみならず広域での移動や物流機能を担っています。また現在、地域高規格道路・東播丹波連絡道路を形成する国道 175号西脇バイパスの4車線化や西脇北バイパスの整備が進められており、一層の広域交流や地域活性化の促進が期待されています。

一方、公共交通では、鉄道としてJR加古川線が通っており、市内に7駅があります。バス路線としては、西脇営業所から大阪方面を結ぶ高速バスや神戸方面を結ぶ急行バスなどが運行されています。

■ 市内駅の1日平均乗客数（平成20年度）

	西脇市駅	その他の駅	合計
JR加古川線	631	96	727

■ 市内発着バスの運輸状況（平成20年度）

	西脇営業所 発着本数	営業距離 (km)	乗車人員	1日当たり 平均乗車人員
神姫バス	82	219.0	2,032,175	5,567

3 周辺市町との連携を想定する取組

本市を中心市とした定住自立圏では、圏域全体の発展と圏域住民の利便性の向上のため、周辺市町と連携し、次のような取組を推進していくことを想定しています。

(1) 生活機能の強化

ア 医療

- ・ 圏域医療の中核病院である市立西脇病院の質の高い医療の提供に向けた機能強化
- ・ 市立西脇病院を中心とした病院及び診療所との連携強化及びネットワーク化
- ・ 圏域住民等が主体となった地域医療を守るための活動支援
- ・ 市立西脇病院内での休日急患センターの共同設置運営
- ・ その他圏域の医療資源を確保し、地域医療体制の充実に関する取組

イ 福祉

- ・ 福祉施設の広域的利用の推進及び拠点施設の整備
- ・ 介護、福祉分野における認定審査会の共同設置運営

ウ 教育・文化

- ・ 圏域内での一体的利用を踏まえた学校給食施設の統合整備
- ・ 図書館等生涯学習施設における利便性向上のための連携強化
- ・ 文化及びスポーツ施設の相互利用及び広域的活用

エ 産業振興

- ・ 農畜産物における特産品の普及及び開発
- ・ 播州織等の地場産業の振興に向けた支援
- ・ その他圏域の特性や資源を生かした新たな産業の創出等に関する取組

オ その他

- ・ 消防本部の共同設置運営及び災害時の応援や広域再編による消防・防災体制強化の推進
- ・ ごみ処理場及び斎場の共同設置運営

(2) 結びつきやネットワークの強化

ア 地域公共交通

- ・コミュニティバスの利便性向上のための運行改善及び再編ネットワーク化
 - ・生活バス路線の運行維持確保
 - ・その他圏域内の移動サービスの提供及び公共交通の利用促進に関する取組
- イ 道路等の交通インフラ整備
- ・国道 427号をはじめとする広域幹線道路の整備促進
- ウ 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消
- ・直売施設の整備及び有効活用による地産地消の推進
 - ・その他圏域内経済の循環につながる地場産品の地産地消の推進に関する取組
- エ 地域内外の住民との交流・移住促進
- ・北はりま田園博物館構想等の推進による交流の促進
 - ・その他圏域の観光資源の情報発信及びネットワーク化、観光交流事業の実施に関する取組
- オ その他結びつきやネットワークの強化に係る連携
- ・低炭素社会の構築に向けた木質バイオマスや太陽光等の新エネルギーの利活用の促進
 - ・ICTの活用による窓口サービス及び行政相談サービスにおける圏域住民の相互利用

(3) 圏域マネジメント能力の強化

- ア 宣言中心市等における外部からの行政及び民間人材の確保
- ・質の高い医療の提供に向けた医師等の医療従事者の確保
 - ・圏域の政策の推進に資する外部の専門的な人材の登用
- イ 圏域市町村の職員の交流
- ・圏域の政策の推進及び連携の強化に資する職員の人事交流

4 西脇市に対する通勤・通学者の状況

本市の人口状況及び隣接市町からの通勤・通学者（15歳以上）の状況は、次のとおりです。

	人口	夜間人口	昼間人口	昼夜間人口比率
西脇市	43,953	43,951	44,869	1.021

市町名	人口	就業者・通学者 総数*	西脇市への 就業・通学人口	西脇市への 就業・通学率
多可町	24,304	10,521	2,479	23.6%
加東市	39,970	19,263	1,967	10.2%
加西市	49,396	23,030	799	3.5%
丹波市	70,810	31,792	648	2.0%
篠山市	45,245	20,840	82	0.4%

* 就業者・通学者総数は、自宅において就業する者を除いた数
(平成17年国勢調査)